

第1日目 2022年9月3日(土)

午前の部 10:00~12:30

テーマセッション(1)

近世末における家族の標準化—歴史人口学の成果

オーガナイザー：平井晶子(神戸大学)

司会：中里英樹(甲南大学)

討論者：池岡義孝(早稲田大学)

【企画趣旨】

1990年代から進めてきた歴史人口学的家族史研究の成果により「近世末における家族の標準化」が見えてきた。近代国民国家による近代的制度が整う前の段階で、いいかえると上からの近代化により家制度が成立する前の段階で、地域的多様性や階層差の大きい日本家族に標準化の動きが起きていたことになる(落合編 2006, 2015, Ochiai and Hirai eds. 2022)。

本セッションでは、「近世末に標準化した日本家族」という成果を示し、それを日本家族モデルと位置づけ(第一報告)、そこから近代の家や近代家族との関係を捉え直すことをめざす。具体的には、家族やライフコースの変容(第二報告)、祖先祭祀の展開(第三報告)、メンバーの固定化や人口学的制約の変化など(第四報告)について検討し、近世末に立ち現れた日本型家族のその後の展開を見通す。そしてあらためて「家は近代家族か？」を問う。近代国家により整えられた家制度、もしくは昔からある伝統家族としての家、これらを前提とするのではなく、近世末に標準化した家族を軸に、そこからの変化を追跡し、近代家族との関連を論じる。すなわち近世からの持続と変容をふまて近代家族の日本的特性を再検討する。

司会は歴史人口学的研究も行う中里英樹先生にお願いした。討論者は「戦後の家族社会学の展開」をまとめるなど、家族社会学の来し方を熟知する池岡義孝先生にお引き受けいただいた。お二人のお力添えを得て、歴史人口学的成果を家族社会学に位置づけるセッションとなることを目指す。

(文献)

落合恵美子編『徳川日本のライフコース—歴史人口学との対話』(ミネルヴァ書房、2006)
落合恵美子編『徳川日本の家族と地域性—歴史人口学との対話』(ミネルヴァ書房、2015)
Ochiai, Emiko and Hirai, Shoko eds., 2022, *Japanizing Japanese Families: Regional Diversity and the Emergence of a national Family Model through the Eyes of Historical Demography*, Bern, Brill.